

2022年8月3日

千代田化工建設株式会社

総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

## 2023年3月期第1四半期決算説明会発表要旨 (2022年8月1日開催)

2022年8月1日に開催致しました2023年3月期第1四半期決算説明会（電話会議）における弊社の発表内容の要旨を以下にまとめております。

### I. 決算概要(P2)

#### 1. ハイライト(P3)

##### ① 業績

リスクマネジメントを徹底し、手持案件を着実に遂行中。

第2四半期以降、海外大口案件の工事本格化に伴い通期目標へのキャッチアップを見込む。

##### ② 資材費・輸送費高騰リスクへの対応

足許の最も大きな課題と認識しており、各案件への影響を注視しながら、顧客、パートナーと協力して影響を最小化すべく取り組んでいる。

##### ③ 成長戦略

水素事業、カーボンニュートラル分野、ライフサイエンス分野並びにデジタルトランスフォーメーションのいずれも着実に進捗。

#### 2. 損益計算書(P4)

- 完成工事高は757億円、通期予想に対する進捗率(以下、進捗率)は15%。
- 完成工事総利益は65億円、進捗率は19%。第2四半期以降、海外大口案件の工事が本格化、通期目標に則した実績の積み上がりを見込む。
- 完成工事総利益率は8.6%、通期予想7.0%を1.6ポイント上回る。
- 販売費・一般管理費は28億円、前年同期とほぼ同額。

- 営業利益は 38 億円、前年同期比 3 億円増加。経常利益は 35 億円、前年同期と同額。純利益は 22 億円。
- 通期予想に対する利益の進捗率は 19～20%。第 2 四半期以降、完成工事高の増加に伴い利益も通期目標に向かって積み上げていく。

### 3. 利益増減分析(P5)

- 完成工事総利益 65 億円、前年同期比 3 億円の増加。事業分野別では、エネルギー分野 39 億円、地球環境分野 26 億円。完成工事総利益の増加は、地球環境分野の利益積み上げによるもので、インドネシア銅製錬の進捗やライフサイエンス等の新規事業分野が順調に伸びている。
- 販売費・一般管理費は前年同期とほぼ同額。
- この結果、営業利益は前年同期比 3 億円の増加。

### 4. バランスシート(P6)

- 総資産が 3,954 億円から 3,654 億円に 300 億円減少。これは主に、本年 4 月に、完工済みであるイクシス LNG のサブコントラクターとの係争が和解により決着したことに伴うもの。
- 自己資本は前年度末 157 億円から 37 億円増加し 194 億円、自己資本比率 5.3%に改善。

### 5. 受注高・受注残高(P7)

- 受注高は 206 億円、受注残高は 1 兆 3,677 億円を確保。
- 受注残高の主要案件は、エネルギー分野ではカタール NFE LNG、米国ゴールデンパス LNG、インドネシアタンゲーLNG。地球環境分野ではインドネシア銅製錬、バイオ医薬品原薬製造工場など。

### 6. 附表(P8～P10)

- 完成工事高(P8)、受注高(P9)、受注残高(P10)の分野別、地域別の内訳を掲載。

## Ⅱ. 成長戦略トピックス(P11)

### 1. CO<sub>2</sub>分離・回収(P12)

- NEDO の支援事業として、天然ガス利用のカーボンニュートラル化に向けて、ガスタービンから排出される低濃度 CO<sub>2</sub> の大規模な分離・回収に適した「固体吸収材をコアとする国産技術の新開発」に取り組んでいる。
- 従来の技術による CO<sub>2</sub> 排出源からの分離・回収技術と比較して、設備コスト、消費エネルギー及び所用面積の大幅な低減を目指すもの。
- 将来においても継続的な需要が想定される、天然ガス利用の更なる低炭素化を実現し、既存インフラの活用と低炭素化を両立させるソリューションの提供を目指す。

### 2. 水素事業～SPERA 水素™～(P13～P14)

#### ① P13: 当社独自技術である SPERA 水素™によるグローバルなビジネス展開

- 欧州では、輸入水素のゲートウェイを目指すオランダ・ロッテルダムにて商業規模の水素輸入による国際間水素サプライチェーン構築の検討中。
- アジアでは、シンガポールにてクリーン水素サプライチェーン事業の実現に向けた具体的な検討を進めている。
- 水素製造事業者・再生可能エネルギー事業者といった水素の供給側から、港湾当局・インフラ企業・重工産業企業といった水素の需要家まで、さらには関係政府機関をも含めて密にコンタクトし、多角的な協議を重ねている。引き続き SPERA 水素™ 技術を用いて世界各地の水素源から MCH\*で水素を運び、港湾部から内陸部に水素を届ける「グローバル水素サプライチェーンの構築」を強力に推進中。

\* MCH: Methylcyclohexane(メチルシクロヘキサン)

#### ② P14: ドイツ・シヨルツ首相による脱水素デモプラント視察

- ドイツ・シヨルツ首相が川崎臨海部にある脱水素デモプラントを 4 月に視察。視察前日の在日ドイツ商工会議所 60 周年記念イベント「日独ビジネス・ダイアログ」では、当社の SPERA 水素技術は国際間水素サプライチェーンの構築にあたって世界で模範となりえる、との力強いコメントを頂いた。この期待に応えるべく、全力で水素事業を加速していく。

### 3. エネルギーマネジメント事業(P15)

- 北海道で世界最大級の蓄電池システムを建設中。北海道北部風力送電株式会社より20年間の保守業務を受注。
- 再生可能エネルギー導入の拡大に資する「蓄電池」のより有効な「使い方」に着目した実証業務も遂行中。例えば AI を活用した風況予測から風力発電所の出力を事前に予測し、蓄電池の劣化を加味しながら、最大現の活用を試みるなど。
- 今後、再生可能エネルギーの主力電源化に向け、蓄電システムを組み合わせた複合型の案件が出てくることが予想される。
- これらを通して、再生可能エネルギーの地産地消を進める地域ユーティリティ事業への展開を目指すとともに、事業者と地域の共生・共創による地域創生にも貢献していく。

### 4. ライフサイエンス事業(P16)

- シオノギファーマ(株)が主導し、当社が参画する、世界初の医薬品原薬・中間体の開発製造受託会社 Pharmira(株)が本年4月に始動。
- 石油化学プラントで培ってきた連続生産技術を基に、医薬品分野で次世代製造プロセス技術と位置付けられる連続生産技術の実装化に貢献していく。
- 当社の強みである連続生産技術を水平展開することで、ライフサイエンス分野ビジネスの強化を図る。

### 5. デジタルトランスフォーメーション(DX)(P17)

- プラント運転・保守の最適化ソリューションを EFEXIS®ブランドで展開、顧客での導入が進んでいる。
- EFEXIS®ブランドのラインアップの拡充として、高度診断・解析技術と最新の IoT・クラウド技術を融合した「O&M Mother」を新たにリリース。
- プラントの状態をオンラインでクラウドを介して可視化し、運転・保守を効率化するソリューション。本ソリューションの第1弾として配管腐食の可視化、回転機器の異常予知、残存寿命診断を提供。

- EFEXIS®ソリューションの提供により、顧客のプラント操業の DX を実現し、より安心・安全なプラント操業を支援。

### Ⅲ. 主要遂行中案件(P18)

#### 1. 主要遂行中案件(エネルギー分野)(P19)

- 各案件とも概ね順調に進捗。
- カタール NFE LNG は設計・調達業務に加えて、プラント設備の工事を開始。

#### 2. 主要遂行中案件(地球環境分野)(P20)

- インドネシア銅製錬プロジェクトは機器の発注はおおむね完了し、現地工事が本格化、順調に進捗。
- その他、成長分野に位置付けているライフサイエンス、エネルギーマネジメントの分野で大型案件を遂行中。いずれも順調に進捗。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。